

栃木県眼科医会理事会議題(平成30年度第2回)

日 時：平成30年7月18日(水) 午後7時から

場 所：宇都宮市医師会館

出席：【会長】吉澤徹 【副会長】石崎道治、釣巻穰 【理事】井岡大治、稲葉全郎、井上裕治、上田昌弘、大久保彰、大塚信行、金子禮子、久保田芳美、斎藤信一郎、関本慎一郎、高橋雄二、堤雅弘、永田万由美、細川美奈子、渡辺芽里 計18名

欠席：【理事】大柳静香、青瀬雅資 【監事】原裕、旭英幸 【顧問】柏瀬宗弘、川島秀俊、妹尾正、新井田孝、宮下浩 計 9名

《会長挨拶》

今年度2回目の理事会になりますが、開会に先立ちまして、今回、西日本豪雨で被害に遭われた方々に対し、心からのお見舞いを申し上げるとともに一日も早い復興をお祈りしたいと思います。

日本眼科医会でもこの15、16日の2日間、ビジョンバンが岡山県真備町に派遣され医療支援活動を行っています。災害はいつでもどこで起こるかわかりません。今後栃木県に何かあった時にも、県内での迅速な被害調査と、関係機関との連携による対策が必要になることと思います。皆さんよろしくお祈りいたします。

《総 務》

【斎藤】

報告：1. 平成30年度第1回関ブロ支部長会議出席報告(5月19日(土) 新潟グランドホテル)

吉澤徹)会長、出席

出席者 神奈川県：小口和久、埼玉県：猪俣俊晴、千葉県：麻薙薫、茨城県：伊藤睦子
栃木県：吉澤徹、山梨県：今井雅仁、新潟県：中山徹、群馬県：丸山明信、長野県：野中隆久
(今回、埼玉、茨城、栃木、山梨の各県から新会長が選出された。)

1. 開会の辞 新潟県眼科医会会長 中山 徹
2. 協議事項

神奈川県

日眼医90周年記念事業一般公開健康講座について

現在、全国各ブロックに一カ所で記念講座を開催する予定で、当ブロックでは今のところ前年度に関ブロ学会を開催する群馬県が有力である。

埼玉県

各県眼科医会常任理事以上によるメーリングリスト作成について

すでに作成しているのが5県、栃木県では今年度の早い段階で運用開始を予定中である。

新潟県

慶弔規定の各県の状況についてと、会長選挙の期日について

各県より資料を提示。現状では各県により総会の開催時期が異なるため、それに合わせて会長選挙が行われている。

3. 報告事項

なし

4. 第55回関東甲信越眼科学会開催について

日時：平成31年5月25日(土)・26(日)

場所：ホテルメトロポリタン高崎(高崎市)

5. その他

1) 今回、埼玉、茨城、栃木、山梨の各県から新会長が選出された。また、次期日眼医役員ブロック候補についても討議された。

2) 平成30年度第2回関ブロ連絡協議会について

日時：平成31年3月3日(日)

場所：ホテルキャメロットジャパン(横浜市)

6. 閉会の辞 群馬県眼科医会会長 丸山明信

報告：2. 平成30年度第1回関ブロ支部長会議、連絡協議会出席報告(5月19日(土) 新潟グランドホテル)
吉澤徹(県会長・日眼医代議員)、石崎道治(県副会長・日眼医代議員)、原裕(関ブロ顧問)出席

日眼医定時代議員ブロック代表質問として以下が採択された。

1. 眼鏡とCL眼障害の調査、啓蒙活動(神奈川)
2. 日眼医の8ブロックから7へ減らし、会員1名当たりの不公平をなくしたい(千葉)
3. 勤務医連絡協議会の拡大。各2～3名の出席(新潟)
4. 眼科公的検診実現(栃木)
5. 内部留保の対応が消極的な会計事務所は如何なものか(千葉)

報告：3. 平成30年度第1回関ブロ男女共同参画委員会出席報告(5月19日(土) 新潟グランドホテル)
細川美奈子理事出席

議題：1. 神奈川県より

各県の男女共同参画委員会の現状について

2. 千葉県より

第1回全国眼科男女共同参画協議会3か年計画宣言(日本眼科医会、都道府県眼科医会の役員会、委員会に定める女性の割合3割以上)の採択後の各県の進捗状況

3. 新潟県より

新潟県では子育て医師サポーターバンクの事業化が計画サポーターされている。

他県でもそのような取り組みがあれば聞きたい。

群馬県より現在おこなわれている取り組みを紹介(群馬県医師会の保育サポーターバンクについて)

報告：4. 平成30年度第1回日眼医定例代議員会、定例総会出席報告(6月23日(土)・24(日)ザ・キャピタル東急)
吉澤徹代議員、石崎道治代議員出席

代議員総数144名、出席代議員141名で、会は成立した。

定款第26条第2項により、議長：川野晃嗣(鹿児島県)、副議長：麻薙薫(千葉県)が指名された。

定款第29条により、議事録署名人として、小口和久(神奈川県)、富川節子(東京都)が選任された。

高野会長挨拶

1. 今年度の診療報酬改定について。在宅診療料の複数科での算定が認められた、6つの検査料と一つの手術の新設が認められ、15の手術点数が増点となった。また、白内障手術点数の確保に成功し、基本検査料も守ることが出来た。おおむね成功といえるだろう。
2. 公的眼科検診制度の構築について。全国3か所で検診を実施し、有用なデータを得た。今後の活動に生かしたい。また、5月31日には、自民党本部で無料眼科検診を実施し、国会議員に対して、眼科検診の有用性をアピールできたものと思われる。
3. 眼鏡士問題について。眼鏡技能士の資格認定に向けての動きには、日眼医として賛同できない、との結論にいたった。
4. これまで8年間会長を務めてきたが、最近は年齢による衰えをしばしば自覚するようになった。幸い新しい後継役員も育ててきたので、今回を以って会長引退を決意した。

<議案と報告事項>

第一号議案 平成29年度公益社団法人日本眼科医会事業報告の件

全国より30題のブロック代表質問が上がり、2日間にわたり活発な討論が交わされ可決承認された。内容については、日本の眼科第89巻第7号に掲載される予定。

第二号議案 平成29年度公益社団法人日本眼科医会決算の件

第三号議案 平成31年度公益社団法人日本眼科医会会費賦課徴収の件

例年通り、A会員 45,000円、B会員 15,000円、C会員 7,000円となる。

以上の議案は定款に基づき、承認された。

第四号議案 公益社団法人日本眼科医会顧問、参与委嘱の件

定款第44条に基づき、顧問16名、参与6名の選挙が行われた。

第五号議案 公益社団法人日本眼科医会役員選挙の件

女性としては初めて白根雅子新会長が選出された。また、副会長三名も、小沢忠彦、野中隆久、前田利根各議員が新しく選出され、役員の刷新が大きく進んだ。また医療対策として、井上賢治代議員が選出されたが、今後の政府との交渉において弟の井上信治衆議院議員との良好な関係が期待されると思われる。

第六号議案 公益社団法人日本眼科医会裁定委員選挙の件

定款第46条に基づき裁定委員9名の選挙が行われた。

白根雅子会長の公約は以下の通り

1. 都道府県眼科医会・各ブロックとのより堅固な結束
2. 日本眼科学会とのより緊密な連携
3. 勤務医の課題への対応
4. 広報活動の強化
5. 眼科地域医療の充実
6. 公的な成人眼科検診創設に向けた取り組み
7. 医療対策の取り組み
8. 診療報酬改定への対応
9. 眼科関連団体との連携
10. 日本眼科医会の皆無改革

報告事項 1、平成29年度日本社団法人日本眼科医会物故会員の件

全国で計85名の物故会員が報告され、冥福を祈り黙祷が捧げられた。本県からは原博先生、松島雄二先生、田島幸男先生の三名が該当した。

報告事項 2、平成30年度日本社団法人日本眼科医会会員表彰の件

会長賞13名、会長表彰82名、感謝状20名が表彰された。本県からの該当者はなし。

報告事項 3、平成30年度公益社団法人日本眼科医会事業計画の件

報告事項 4、平成30年度公益社団法人日本眼科医会予算の件

報告：5. 日眼医より連絡の平成30年度各都道府県眼科医会への助成金について

助成の金額は10万円

振込依頼書は、事務局で記入・押印して日眼医に送り 現時点で作業済み。

報告：6. 日眼医有床診療所検討委員会（7月8日（日） 日本眼科医会事務所）

吉澤代議員出席

委員

鈴木 純一（北海道ブロック）	松橋 英昭（東北ブロック）
吉澤 徹（関東甲信越ブロック）	馬詰 良比古（東京ブロック）
花崎 秀敏（東海北陸ブロック）	森井 勇介（近畿ブロック）
三木 統夫（中国四国ブロック）	田畑 賀章（九州ブロック）
加藤 圭一（日本眼科医会）	柳田 和夫（日本眼科医会）

執行部

白根 雅子（会長） 野中 隆久（副会長）

柿田 哲彦（常任理事） 浅井 利通（理事） 盛隆 興（理事）

1) 開会の辞 野中 隆久（常任理事）

2) 会長挨拶

今回、新任となった白根眼科医会会長だが、前日の関西の豪雨災害のため欠席となったがiPadのビデオ会議機能が使われ、参加者への簡単な挨拶が行われた。

3) 委員長挨拶 柳田和夫委員長の司会で議事が進行された。

4) 議題

①ブロック実情報告

全国的には眼科有床診療所の数は減少を続けているが、今後眼科における地域包括システムの構築には、身近に存在する眼科有床診療所の存在が欠かせない。今後眼科有床診療所の無床化を阻止するためには、入院基本料1～3の算定についての施設基準の緩和が必要と思われる。婦人科、眼科、耳鼻咽喉科など専門領域に特化した医療を提供する有床診療所については、そうした専門医療ニーズがある地域において、少ない人員体制で専門医療を効率的に提供可能な形態の一つとして今後も期待される存在であろう。

一方、地域医療を担う診療所については、周辺に病院や介護施設が存在しない医療・介護資源が乏しい地域での役割は引き続き重要であるが、近い将来、医療ニーズが減少することを踏まえると、医療から医療・介護の併用モデルへの転換も選択肢として考える必要もあるのではないかと。

その他、多焦点眼内レンズや、フェムトセカンドレーザーなどについて、フリーディスカッションが行われた。

②眼科有床診療所委員会の活動内容・方針について

野中副会長より：当委員会は現状では地域の実情についての調査、報告が主な仕事となっているが、今後は眼科医療についての政策的な提言を行うことも併せて検討していきたい。この委員会を、医療政策推進委員会の中に統合するか、なども含め、ゼロベースで考えていきたい。

③日本医師会「平成29年度 有床診療所委員会 答申」について

平成29年12月に日本医師会より発表された。この中で、日眼医山岸直也副会長が眼科有床診療所の実情報告と今後必要な対策についての提言を行っている。

④第31回全国有床診療所連絡協議会総会（於：山口県）について

平成29年7月28・29日の両日、山口県湯田温泉で開催された。

⑤「日本の眼科」原稿執筆について

「眼科有床診療所だより」に、第89巻第10号に理事の加藤副委員長、第90巻第1号に東京ブロック選出の馬詰委員、第90巻第4号に北海道ブロック選出の鈴木委員、第90巻7号に東北ブロック選出の松橋委員、第90巻10号に関東・甲信越ブロックの吉澤委員、第91巻1号に中国四国ブロックの三木委員、第91巻4号に九州ブロックの田畑委員が執筆することになった。

⑥ その他

(1)平成31年度 眼科有床診療所委員会の開催日程について

日時：平成31年7月7日（日）10：00～14：00 場所：日本眼科医会会議室

(2)平成31年度 第32回全国有床診療所連絡協議会総会（7/27～7/28：群馬）

5) 閉会の辞 野中副会長

報告：7. 栃木県眼科一次救急診療について

6月7日（木）、NH0国立栃木病院を吉澤会長、釣巻副会長、石崎副会長、旭監事の4人で訪れ、長谷川親太郎院長、田村明彦副院長、その他事務局の方々との面談を行った。

今までの経緯の確認とこの数年の患者減少および昨年度の赤字の問題について話し合い、救急外来のスタッフや設備の問題も話し合ってきた。旭監事からは、10年前と比べ、日曜診療を行う眼科医療機関が増えたことが患者数減少の一因ではないか、という意見がだされた。結論としては契約更新についての細かい部分は後ほど話し合うこととし、まずは県からの補助をお願いすることとなり、日を改めて県の保健福祉部に陳情に行くことになった。

6月22日（金）森澤隆保健福祉部長、國井隆弘保健福祉部次長兼保険福祉課長、吉澤敏弘保健福祉部医療政策課課長、清水康好医療体制整備担当課長補佐、長谷川憲司栃木医療センター院長と吉澤徹会長の面談において、一次救急についての現状を説明し、補助金の支出をお願いした。県側としても、即答はできないが、検討していただけることになった。

7月12日（木）、県保健福祉部広報担当の清水氏より連絡あり。とりあえず関係諸機関へのメールマガジンに眼科一次救急を取り上げる他、9月2日（日）、栃テレの救急の日記念番組にも、眼科一次救急を取り上げる予定であるとの事。

報告：8. 会員の變更

転出： B→A 大沼恵理（獨協医大） 神奈川県へ

協議：1. 平成30年度都道府県眼科医会連絡会議の件（11月11日（日） 東京コンファレンスセンター品川）
吉澤徹会長出席予定

協議：2. 栃木県眼科一次救急診療について

休日診療をしている施設にアンケート調査実施。
自治医大と獨協医大からの意見書のご提出をお願いした。

協議：3. 入会希望者について（転入、開業を含む）

入会： C 林 あゆみ（国際医療福祉大学眼科）
参考書類回覧し問題なく了承された。

《経 理》

【堤】

報告：1. 第58回栃木県眼科医会研究会決算報告

収入 166,740円（AB×46名、C×4名）、支出 223,712円、差額 56,972円 を一般会計より補填。

報告：2. 栃眼医会費等の納入状況

7月13日（金）時点で自動引き落とし65名、銀行振込95名中60名の納入済み。
7月末日期限にて再度納入お願いを送付予定。

協議：1. 事務局PC購入の件

事務局のPCが老朽化にて購入をお願いし、購入の承諾を得る。
20万円以内ぐらいで現在見積り中。
参考資料回覧（18～20万円） 見積りをもとに続行と可決された。

《学 術》

【大久保】

報告：1. 第58回栃木県眼科医会研究会の開催報告（6月22日（金）宇都宮グランドホテル）

特別講演1「加齢黄斑変性長期加療中注意すべき所見」
高橋 秀徳 先生（自治医科大学 眼科学講座 准教授）
特別講演2「高齢化社会における緑内障診療のポイント」
谷戸 正樹 先生（島根大学医学部 眼科学講座 教授）
53名の会員出席にて盛会の内に終了

協議：1. 第41回獨協医大栃眼医合同講演会開催について（7月27日（金）獨協医大）

特別講演1「低侵襲硝子体手術への取り組み」
米田 一仁 先生（京都府立医科大学 眼科学教室 助教）
特別講演2「OCT angiographyは眼科臨床を変える？」
-糖尿病黄斑浮腫診療での有用性-
野崎 実徳 先生（名古屋市立大学大学院 医学研究科 視覚科学 講師）

協議：2. 第12回栃木県内科眼科関連疾患懇話会（11月15日（木）宇都宮グランドホテル）

特別公演1 鈴木 重成 先生（獨協医科大学 眼科 講師）
特別公演2 倉沢 和宏 先生（獨協医科大学 リウマチ・膠原病内科 教授）

協議：3. 第7回栃眼医獨協眼科病診連携の会の件（11月9日（金）宇都宮グランドホテル）

特別講演1「DME診療アップデート」
村上 智昭先生（京都大学大学院医学研究科眼科学 助教）
特別講演2「周術期感染症対策」

協議：4. 第8回ぶどう膜カンファレンスの件

9月28日(金)に開催予定
特別講演：九州大学 園田 庸平 教授

協議：5. 第76回栃木県眼科医会集談会の件

11月16日(金)に開催予定

協議：6. 第28回下野眼科談話会の件

日時：平成31年3月15日(金) 19時～ 場所：宇都宮グランドホテル
演者未定

協議：7. 眼科医会研究会および集談会の特別講演者への謝礼金の増額について

本会では、謝礼金は税抜き10万円プラス交通費を支払っているが、増額が必要なのではないか。関東甲信越の眼科医会での、（眼科医会が支払う研究会の謝礼金）について、眼科医会事務局（執行部）が調査して、次回の理事会に報告し、その上で、改めて当県の謝礼金を増額するべきか否かについて議論の上、決定することとなった。

《医療安全対策及び福祉》

【関本】

報告：1. 平成30年度眼科コメディカル研修会の件

受講者 17名 修了証書取得 16名

協議：1. 平成30年度忘年会の件

12月19日(水)開催
会場は未定

協議：2. 第89回栃木県眼科医会ゴルフコンペの件

10月7日(日) 宮の森カントリークラブで開催予定。
会員ご家族も参加が可能。

《保 険》

【井岡】

報告：1. 平成30年度関プロ保険委員会出席報告（5月19日(土) 新潟グランドホテル）

千葉桂三審査員出席

報告：2. 平成30年度全国審査委員連絡会議出席報告（6月3日(日)TKP品川カンファレンスセンター）

苗加謙応審査員出席
会議の結果は日眼医のHPのメンバーズルーム「社会保険Q&A検索」に追記されたこと、8月20日発行予定の「日本の眼科」第89巻8号に記録として掲載される予定であることを報告した。

報告：3. 平成30年度第1回審査委員連絡会の開催報告（6月26日(水) 宇都宮市医師会館）

千葉桂三、大野研一社保検査員、苗加謙応国保審査員、井岡大治理事の出席にて開催された。
平成30年関プロ保険委員会と平成30年度全国審査委員連絡会の会議の報告と各議題についての検討が行われた。
検討結果については審査員の了承を得てから公表する予定。

報告：4. 保険医療機関の診療科別平均点数眼科抜粋について

日眼医から「各地方厚生局のホームページに診療科別の平均点数が公表され眼科を抜粋した資料」が送付された。栃木県の眼科平均点数は912点、最高は秋田県の1253点、栃木県では各医療機関の

平均点数が912点を大きく超える場合、個別指導の対象になることが予想された。
詳細は各地方厚生局のHPに「保険医療機関等の診療科別平均点数一覧表」として公表されている。

協議：1. 平成30年度都道府県眼科医会保険担当理事連絡会について（10月28日（日）APアネックス）
井岡大治理事出席予定、提出議題は8/3までの期限で現在検討中と報告し、了承された。

協議：2. 日本弱視者史学会より「回旋斜視角測定のための眼底カメラ撮影についてのアンケート」の件
吉澤徹会長からの追加議題で、上記内容について審査員と大学関係者にアンケートを行い現状結果を報告する予定とし、了承された。
日本斜視弱視学会からのアンケートについて 井岡大治理事に委託

《広報》

【大柳】

報告：1. 栃眼医会報第51号発送について
発送を完了した。

協議：1. 栃眼医会報52号の発行時期について
関プロ（6月末）の報告が間に合うように発行時期の一月後への変更を計画中。次回協議の予定。

《学校保健》

【久保田】

報告：1. 第42回全国学校医連絡協議会提出議題について（9月30日（日）東京グランドホテル）
久保田理事出席予定、アンケート返信
「屋外部活動時の紫外線による眼障害対策について」
電気性眼炎等の紫外線による眼障害は周知だが、学校現場においても屋外活動時の紫外線暴露によると思われる眼球結膜充血やびらんをしばしば見かける。サッカー部やテニス部、野球部、ソフト部、陸上部等の屋外で活動する生徒で、特に紫外線が強く屋外での部活動が長くなる4～6月に頻発する印象がある。
学校眼科医として教育現場にこのような事実を提示し、帽子着用や紫外線遮蔽眼鏡装用などのアドバイスが必要と議題として提出する。

報告：2. 学校現場におけるCL実態調査について
宇都宮市立雀宮中央小学校、宇都宮市立雀宮中学校、栃木県立石橋高校の3校を選定し、日本眼科医会に事前提出（眼科学校医担当は 久保田芳美理事）

《公衆衛生》

【大塚】

報告：1. 「身体障害者福祉法の新しい視覚障害認定基」について
7月1日（日）から適応。新しく自動視野計での判定基準が導入された。
詳細は『日本の眼科5月号』に掲載されている。

報告：2. 日眼医より送付の平成30年度目の愛護デー行事予定表提出の件
締切 7月22日（日）で提出済。

協議：1. 目の愛護デー記念行事開催について（10月21日（日）宇都宮市健康センター（ララスクエアビル9階））
目の健康講座 「糖尿病と目」 鈴木重成先生（獨協医科大学眼科学教室講師）
無料相談員： 齋藤由香先生（小山市 齋藤眼科医院）
青木由紀先生（栃木市 青木眼科医院）
日程：14：00～15：00 目の健康講座
15：00～（受付15：30まで） 目の無料相談
15：00～（受付15：30まで） 眼圧無料測定
下野新聞意見広告の依頼について：
本年度は、釣巻穰副会長にお願いすることになった。

例年、下野新聞に意見広告を掲載している（眼の病気などの文章 原稿用紙4枚ほど）
目の愛護デーの講演演題が決まり次第下野新聞に依頼メールを送付予定。
ポスター：色はオレンジの予定。
後援依頼：栃木県 宇都宮市 栃木県医師会 宇都宮市医師会（手紙発送済）
ポスター、ちらし資料回覧

《医療対策》

【高橋】

報告：1. 栃木県庁薬事課と栃木県医師会訪問の件

6月5日（火）吉澤徹会長と高橋雄二理事で栃木県県庁薬務課に講師の依頼およびコンタクトレンズ管理者継続講習会（12月2日（日）開催）の概要について陳情に行ってきた。
栃木県医師会には、コンタクトレンズ管理者継続講習会の後援依頼に行き、了承された。

《勤務医》

【上田】

報告：1. 平成30年度関プロ勤務医委員会出席報告（5月19日（土） 新潟グランドホテル）

上田理事出席

（議題1）研修医や他科の医師が作成したスライドの中に色覚異常者への配慮がされていないものがある。

眼科医として積極的に啓発すべきではないか（神奈川県）

（議題2）入院での白内障手術がDPC算定となったことで、手術日程の決め方や収益に影響があったかどうか（神奈川県・千葉県）

（議題3）眼科入院患者における他職種との協力体制について（千葉県）

報告：2. 第23回栃木県眼科手術談話会開催報告及び収支報告（5月25日（金）宇都宮市医師会館）

60名参加 収入 179,370円、支出 204,641円、25,271円を栃眼一般会計から補填
一般演題：4題

特別講演：「結果を出す硝子体手術」

中静裕之先生（日本大学病院眼科診療教授・アイセンター長）

報告：3. 日眼医より依頼の「都道府県別新眼科医数調査」について

栃木県は6名（獨協 2名 自治 3名 国際医療福祉 1名）

協議：1. 第19回全国勤務医連絡協議会の件（11月18日（日）品川シーズンテラスカンファレンス）

上田昌弘理事出席

午前中は 講演「日本医師会における勤務医に対する取り組み」（日本医師会副会長 今村聡先生）
午後は各都道府県からの議題提出、質疑応答。

《日眼医連盟》

【吉澤】

今回、日眼医高野会長は退任されたが、連盟委員長はしばらくの間続けていただける。

5月31日（木）、目の大切さを実感する眼科医療検診体験会が自民党本部で開催され、多くの議員の眼科健診が行われた。今後も眼科医療政策推進議員連盟の会長の田村憲久、井上信治両衆議院議員を中心として眼科医療政策の実現に尽力していただきたい。

《その他》

次回理事会は9月19日（水）に開催する。

（斎藤信一郎 記）